

See-D contest Final Presentation 5.22

2011年5月22日 13時～18時 共同開催・場所／政策大学院大学（GRIPS）

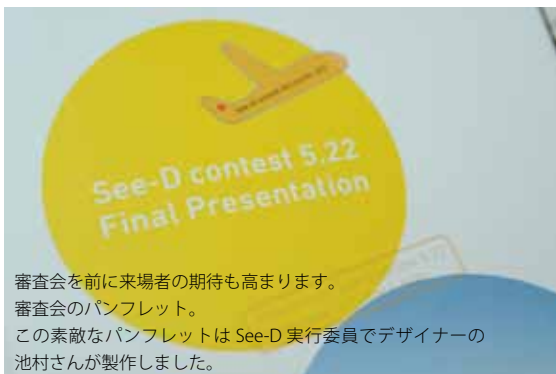
撮影／曾和具之（神戸芸術工科大学）



昨年春からスタートした See-D contest、第1部 See-D Innovation Workshop を経て、いよいよ第2部 See-D Innovation Challenge で審査会の日を迎えました。第2部は多くの応募から厳選された9チームがプランを発表する運びとなりました。震災のために延期になった当日。それぞれの色々な想いが込められています。



審査会の準備をする See-D Contest 実行委員と参加者たち。この審査会に至るまでには様々な困難がありました。その数ヶ月におよぶ取り組みの集大成として、発表を成功させるために入念な準備をしています。



審査会を前に来場者の期待も高まります。
審査会のパンフレット。
この素敵なパンフレットは See-D 実行委員でデザイナーの池村さんが製作しました。



審査会がはじまりました。

実行委員の山内さんが作成した、心に刺さるオープニングムービーが流されました。

‘世界中に存在する深刻な問題に私達は無力だと思っていた。

そんな問題に技術を適正に組み合わせることで課題解決ができる。…… ’

日本の技術で世界の課題解決を。”想いの種を育てる”See-D Contest 第2部最終章の幕開けです。



政策研究大学院大学の黒川清先生、Kopernik 代表の中村俊裕さんからのご挨拶。

TEAMS' PRESENTATION

Student team

1 おかゆーす

メンター：久木田 純



東ティモールでの雨水利用の促進に一役買いたいという想いのもと、誰でも簡単に製作することができる折り畳み式の簡易雨水貯水タンク「TAPURI」を提案しました。実際に貯水タンクを覆う土壁をどのように作るかという実演を交えながらのプレゼンが印象に残りました。質疑応答では「熱帯地域においては水が対流していないと水が腐ってしまう。それにはどう対応するのか」等の質問がされました。

2 熊本高等専門学校

メンター：遠藤 謙



去年卒業した先輩からの熱い意志を引き継いだ、熊本から参加をしてきた期待の新星たち。魚を保存できるようにし、東ティモールの漁業発展に貢献したい。自転車とスターリングエンジンを繋げる事で輸送と同時に冷却を行うアイデアを提案しました。質疑応答では「コスト面は分析しているのか、具体的な入手方法や資金はどうするのか」等の質問がされました。



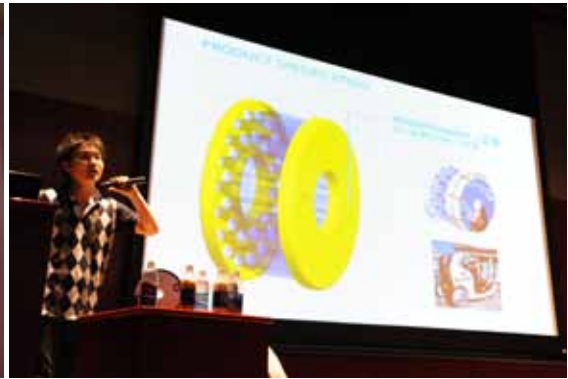
デザイン学校で出会った工学系と文化系、価値観の違う2人。この2人が1つの作品を作ったらどうなるだろう。そして共通した「子どもたちに描くこと、作ることの『楽しさ』を伝えたい」という想い。そんな想いから、トウモロコシの芯を利用した描画用具という新しい木炭の使い方が提案されました。どうすればアイデアが子どもたちに普及していくか、発表を通じてその情景が見えてくるようなプレゼンでした。質疑応答では「黒板に木炭を使った場合、文字はしっかりと読めるものとなるのか」等の質問がされました。

TEAMS' PRESENTATION

Business team

4 Sunny Side Garge

メンター：小木曾 麻里



東ティモールにて肌で感じた課題に対してエンジニアとしての能力を発揮する。そんな想いで結成されたチーム。水・輸送・貧困の問題を現地にあるボトルを使って解決するプロダクト「Cycle」を提案しました。自分たちが実際に経験したことを紐解き、現地の人に実際に役立つものを作りたく、そんな想いを感じさせられる発表でした。質疑応答では「何処にでもあるペットボトルを使う視点はすごく良いが、耐久性はどうなっているのか。また悪路はどうするのか」等の質問がされました。

5 漢塾 優秀賞を獲得

メンター：小辻 洋介



生活の中で使われる力、遊ぶ力を利用して電気を生み出す小型発電ユニット「LinkWatt」を提案しました。実際にキックボードを用いながら寸劇を交えながら実演をしました。現地の人自らが、創造性を発揮し、生活に生かしていくためにはどうすれば良いかという視点。それを考え抜いてきたことが伝わってくる発表でした。質疑応答では「発電後の使い方は」「蓄電機能はあるのか」「耐久性はどうなのか」等の質問がされました。



下痢に苦しむ子どもたちをなくしたいという想いのもと、水の吸収効率が最も高まり、脱水症状を緩和させる経口補水液 (ORS) を作るための計量機能をキャップにつけたペットボトルを提案しました。水 500ml、砂糖大さじ 2 杯、塩小さじ 1/6 杯で救える命がある。そんな想いを感じさせてくれた発表でした。質疑応答では、「計量カップを売るだけの方法ではダメなのではないか」等の質問がされました。

7 魚のいのちを人のいのちへチーム



栄養不足で苦しむ子どもたちがいる一方で、棄てられている魚のいのちがある。この魚のいのちを人のいのちに移し替えて大きな社会矛盾を解決したい。そんな想いから、かまぼこ屋で培ってきた魚タンパクの加工技術を使って、「魚肉タンパク質粉末」を提案しました。145年続く老舗の風格を感じる発表でした。質疑応答では「加工する事でどれくらい保存期間が伸びるのか」等の質問がされました。

協力団体の紹介



独立行政法人 国際協力機構 (JICA)、NPO 法人 ETIC、日本財団、ミュージックセキュリティーズ株式会社、株式会社 enmono、MIT D-Lab、FabLab Japan、UTB Japan、東京大学 i-School、Motivation Maker

8 東景

メンター：遠藤 謙



ワクチンの不接種によって亡くなる子どもたちを無くして、子どもたちに多くの笑顔を届けたいという想いからワクチンを冷却し、運搬し、更にはローカル通信を利用して患者管理を正確簡単にできるクーラーバイク「WAKU-WAKU」の提案をしました。発表では実物を用いながら説明が行われました。質疑応答では「ローカル通信設備について詳しく教えて欲しい」等の質問がありました。

9 Wanic 最優秀賞を獲得

メンター：金田 修



医師、デザイナー、メーカー社員、学生、講師など多様なメンバーで構成されたチーム。ココヤシの実を使用し誰でも簡単にお酒を作れる「Wanic Kit」を提案しました。発表では実際にどのようにお酒を作っていくのかを、本物のヤシの実を使いながら臨場感溢れるプレゼンでした。プレゼン最後の「Learn **each other** deeply, Create **our new cultures**」という言葉がとても印象的でした。質疑応答では「味はどうなのか」等の質問がされました。



計9チームの発表も終了し、いよいよ来場者と審査員による審査投票の時間となりました。来場者は1人1票の投票をすることができ、この投票用紙が審査結果を左右する重要な鍵となります。そして実は、この投票用紙は順番に折っていくと、ある番号が見えるように仕掛けが施してあります。この番号が展示会場で作品を見て回る際の順番となりました。

番号の順番から順次展示会場へ移る来場者。
投票が進められていきます。

展示会場にて。

展示会場ではチーム毎の説明会が順次行われました。展示会場は熱気で包まれ、来場者がチームの面々に対して様々な質問をしていました。展示物は実際に手に取り、体験できるようにもなっていました。来場者とチームとの交流だけではなく、来場者同士の交流も活発に行われていました。その一方で、来場者が展示会場でチーム毎の説明を受ける中、審査員は別室にて白熱した審査を行っていました。



授賞式と、審査員からのコメント。

司会は頼れるお兄さん、実行委員の梅澤さんでした。その名司会ぶりには惚れ惚れさせられました。



1. See-D Business Challenge 最優秀賞

「Wanic」チームが受賞しました。

ngi group 金子様より

「会場も、現地の人でも、全員がWanicを一番に選んだ。なぜならWanicプロダクトは分かりやすい。そしてビジネスをする上で大切な熱意がある。Wanic酒が飲める日がくることを楽しみにしてる。」

2. See-D Business Challenge 優秀賞

「漢塾」チームが受賞しました。

Sunny Side Garage を僅差で上回りました。

Takram 渡邊様より、

「利用者に用途を委ねている部分、その未完成的な部分が魅力的な作品とさせている。様々なモノだけでなく、人々の想いなどもLinkして欲しい。」

3. JICA 地球広場賞、

See-D Student Challenge 優秀賞

「SANSHIRO」チームがW受賞しました。

JICAの山本様より、

「トウモロコシの芯を木炭にするアイデアはとてもエコで経済的。チームの今後が楽しみ。」



審査員の皆様、ありがとうございました。

石黒猛クリエイティブ・ラボ 石黒猛,
日本ポリグル株式会社 代表取締役会長 小田兼利,
ngi group 株式会社 代表執行役社長 金子陽三,
政策研究大学院大学政策研究科 教授 黒川清,
Sony 株式会社 CSR 部 部長 富田秀実,
JICA 地球ひろば 副所長 山本愛一郎,
takram design engineering セニア デザインエンジニア 渡邊康太郎,
Peace Dividend Trust (PDT) Senior Adviser Edward Rees,
Caltech CEO Co-Owner Jean Vezina,
Caltech Business Developer Co-Owner Shellia A. C. R. de Caldas